

令和元年度 第2回八千代市青少年センター運営協議会会議録

日時 令和2年2月14日(金)
午前10時00分 開会 ～ 午前11時02分 閉会

場所 八千代市教育委員会 2階 大会議室

議題

- ・令和元年度 活動状況について
- ・令和2年度 活動計画について
- ・増加傾向にある家出事案について

出席者名 委員 鈴木 利明 委員 , 設楽 憲一 委員
石井 耕太郎 委員 , 毛塚 早苗 委員
遠藤 善美 委員 , 櫻井 和彦 委員
川村 振一郎 委員 , 落合 啓子 委員
三代川 義雄 委員

執行部 小林 伸夫 教育長
吉村 昌彦 教育次長
嶺岸 秀一 指導課長
片波見 昌浩 青少年センター所長
鎌田 裕平 青少年センター主任指導員
石田 英明 青少年センター主査補

公開・非公開の別 / 公開

傍聴人定数及び傍聴人数 / 定数5名 傍聴人数 0名

執行部	<p>ただいまより、第2回八千代市青少年センター運営協議会を始めさせていただきます。各委員の皆様には、ご多忙の所、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>本日は9名の委員の皆様にご出席いただいております。委員の過半数以上のご出席をいただきましたので、八千代市青少年センター設置条例施行規則第6条の規定により、本会議は成立いたしますことをご報告いたします。</p> <p>皆様にご了承をいただきたいことがございます。情報公開制度の一環といたしまして、本運営協議会も公開の対象となっており、傍聴することができるようになっております。また、協議会が終了後、会議録も公開するようになっておりますので、発言を録音させていただきますのでご了解をいただきたいと思っております。</p> <p>それでは、はじめに、小林教育長よりご挨拶申し上げます。</p>
教育長	<p style="text-align: center;">————— 教育長挨拶 —————</p>
執行部	<p>ありがとうございました。それでは、ここで小林教育長、吉村次長、嶺岸課長は公務のため、退席いたします。</p> <p>続きまして、鈴木委員長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
鈴木委員長	<p style="text-align: center;">————— 委員長挨拶 —————</p>
執行部	<p>ありがとうございます。次に議長の選出ですが、八千代市青少年センター設置条例施行規則第5条2項・3項により、議長を鈴木委員長にお願いします。鈴木委員長、前の議長席にお願いいたします。</p>
鈴木委員長	<p>よろしくをお願いいたします。座らせていただきます。進行役の方を務めさせていただきます。委員の皆様には、ご協力よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、最初に本日の議題であります報告に入らせていただきます。執行部からお願いいたします。</p>
片波見所長	<p>本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。当センターの運営につきまして、忌憚のないご意見いただき、これからの運営や活動に生かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、令和元年度の青少年センターの活動状況についてご報告いたします。本日お配りいたしました令和元年度八千代市青少年センター状況報告の方をご覧くださいながら、進めさせていただきます。まず、街頭補導活動についてですが、補導委員さんがそれぞれの地区ごとに行う地区補導、センター職員と一緒に中央補導、センター職員のみで行うセンター補導、また、学校や警察と合同で行うパトロール等すべてを合計したものです。</p> <p>補導回数は298回で、補導少年数は52名となっております。補導の内訳としては、帰宅指導が多くなっているのが今年の特徴です。夏場はそんなに多くなかったんですが、冬場ですね、日が短くなって4時過ぎなんですけども遊んでいて声掛けした子どもたちが多く見受けられております。続いて、自転車、2人乗り以外の迷惑行為ということで、キックボードですとか、ウェイボードに乗っている子どもが多く見受けられます。昨年度までは、高校生の自転車の2人乗りが非常に多かったんですけども、今年度は、高校生の中でスポ</p>

一ティな自転車が非常に流行っておりまして、そもそも自転車に荷台がないことから、自転車の2人乗りが減っているという特徴が見受けられます。次に裏面をご覧ください。

青少年の相談件数ですが、3件となっております。教育委員会には、青少年センター以外にも指導課や教育センター、適応支援センターなどの相談窓口となっているところが他にもあります。青少年センターへの相談は非行や生活の乱れの相談ですが、年々減ってきているのが現状です。

次に通報についてです。青少年センターと警察への通報件数は459件となっております。内訳を見えますと、やはり警察へのたむろの通報が一番多くなっております。これは夜間の時間帯になるのではないかと思います。私たちが活動している間にたむろを見かけることはほとんどありません。青少年センターに寄せられているその他105件とありますが、ほとんどが不審者となっております。内訳は、声かけが22件、露出が17件、暴行・傷害が13件となっております。ほとんどが市内小中高の登下校時間帯に起こったものです。センターとしましては、こういった情報を学校からもらった際には、市の危機管理課と協力しまして、防犯情報メールを即座に流して二次被害に遭わないような対策をとっているところでございます。

次に以前にお配りしました資料の3ページをご覧ください。八千代市青少年補導委員連絡協議会の活動についてご報告いたします。本日、委員として参加していただいております、落合会長を中心に、現在125名の補導委員さんが、10地区に分かれてそれぞれの班ごとに補導活動を行っております。それに加えて各地区で行われる夏祭りのパトロールや中学校の総合体育祭のパトロール、県下一斉や列車内のパトロール等も行っております。

また、(10)にありますように、学校警察連絡委員会が開催している後期地区学警連に補導委員さんにも参加していただき、学校の生徒指導担当の先生方や警察の方との情報交換を行い、地域の子どもの様子や危険箇所等の情報を共有する中で有意義な会となっております。

その他にも、県やブロックごとに行われる研修会にも積極的に参加していただいております。資料の(12)にありますように、3月には全体研修会を計画しております。今年度は、元青少年センター所長の仁井山先生を講師にお迎えして、「補導委員の心得、子どもたちの様子について」という題で、お話を聞く予定になっております。また、お手元の別紙資料にありますように、補導委員の広報誌「かけはし」を年に2回発行しております。後程ご覧ください。補導委員の皆様には、普段から地域の子どもの様子は地域で見守ろうということで、精力的に活動をしていただいております。

次に、八千代市学校警察連絡委員会の活動についてご報告いたします。資料の3ページ中段から5ページをご覧ください。学校警察連絡委員会は市内小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の校長先生、生徒指導担当の先生、八千代警察署員で組織されております。委員会は年に2回、一堂に会し、子ども達の健全育成と非行防止、安全安心のため情報の共有や意見交換を行っております。また、2回目の委員会では、学校の生徒指導の充実と教職員の資質の向上を図るための研修会も行っております。今年度は、9月に千葉聖心高等学校長の三浦勤治先生を講師にお招きして、「学校における生徒指導」～生徒指導の覚書～という演題で講演していただきました。合同のパトロールとしまして、中・高・特別支援学校合同パトロール・小学校の地区別パトロールを学期に1回ずつ行っております。また、青少年の健全育成の観点から、子どもたちの地域での善い行いを紹介する取組を年間2回行っております。各学校から推薦し

ていただいた善行を青少年センターで取りまとめ精査して、各学校に配布しております。

資料5ページの中段をご覧ください。青少年センターの活動についてご報告いたします。通常行っている補導活動やパトロール以外に、学期毎に八千代警察署、京葉地区少年センターとの合同パトロールを行っております。また、地区で行われている夜間の防犯パトロールや地区の夏祭り等にも参加し、子どもの実態把握と地域の方との交流に努めております。また、近隣の船橋市、習志野市等の生徒指導担当、各市の教育委員会や青少年センター、警察との情報交換会も実施しております。

最後に、広報活動についてご報告いたします。5ページ下段をご覧ください。長期休業中の過ごし方についてのしおりを作成し、市内の小中学生の全家庭に配付しております。高校についても、先生方の参考にしていただくために配付しております。その他、「広報やちよ」に非行防止と健全育成のための記事を掲載し、市民の皆様にもお知らせしております。また、青少年センターからの広報紙「フロンティア」を毎月発行しております。補導状況のほかに、補導委員や学警連の活動報告及び青少年に関わる情報等を掲載し、学校並びに関係機関に配布しております。

今年度も、学校や警察をはじめ、多くの機関と連携を取りながら、活動をしてまいりました。今後も、様々な機関と連携を図りながら活動を充実させていきたいと考えております。よろしく申し上げます。

以上で報告を終わります。

鈴木委員長

ありがとうございました。ただ今、執行部の方から状況報告がありましたけれども各委員さんの方から、ご意見がありましたらお願いいたします。

ご意見の方はよろしいでしょうか。もしありましたら、センターの方に問いあわせていただければと思います。

続きまして、協議の方に入らせていただきます。令和2年度八千代市青少年センター運営方針案につきまして執行部説明をお願いします。

片波見所長

それでは、令和2年度年度の青少年センター運営方針案について、ご説明いたします。お手元の資料6ページ、令和2年度八千代市青少年センター活動報告についてご覧ください。本年度も、学校、補導委員、警察等の関係機関と情報交換をする中で、連携を深めることを柱に活動を行ってまいりました。また、各学校での指導や補導委員の皆様の献身的な活動に支えられながら、警察署をはじめとする関係機関の協力によって、充実した活動ができているように思われます。ここに成果として4点あげさせていただきました。また、課題としても3点あげてあります。交通マナーに関すること、不審者や家出事案への対応等の課題が見えてきました。これらに基づき、令和2年度の運営方針を立てました。7ページをご覧ください。

青少年センターの活動が子どもたちの健全育成・非行防止・安全につながるよう、学校、補導委員、警察署、子ども相談センター等、関係諸機関との情報の共有が大切だと感じていることから、基本方針と重点目標は本年度を踏襲いたしました。具体的方策を7項目挙げさせていただきました。来年度は特に、家出事案が多かったことから(3)の中に非行防止ということをつけ加えさせていただきました。また、(4)にあるように、やちよ防犯情報メールも引き続き重点を置いて活動していきたいと考えております。また、今年度まで行っ

<p>鈴木委員長</p>	<p>ていた善行賞につきましては、個人情報の取扱いの問題や市民の方からご意見をいただきまして、今年度を最後に廃止といたしたいと思えます。委員の皆様それぞれの立場からのご意見をいただき、令和2年度がより充実した活動になればと思えます。忌憚のないご意見をよろしくお願ひいたします。</p> <p>ありがとうございました。ただいま執行部より説明がありました令和2年度八千代市青少年センター運営方針案ですけれども、何かご意見ございませうでしょうか。ではこちらもよろしいでせうか。ではこの提案をもとに、令和2年度八千代市青少年センター運営方針を整理していただければと思えます。</p> <p>続きまして、各委員からの提言ということで、「増加傾向にある家出事案について」ということですが、それぞれの立場からご意見をいただきたいと思えます。まず、なぜこのテーマを選んだのか執行部の方から説明をお願ひいたします。</p>
<p>鎌田主任指導員</p>	<p>はい。我々が実施しているパトロールや各校からの報告を通して、実感していることがございませう。それは、子ども達の生活スタイルが変わってきているということです。お手元の資料8ページをご覧ください。そちらに記載してあります通り、家出事案に関する報告が大変増加してあります。一昨年度は4件、昨年度は5件だったものが、今年度は12月末の段階で10件、そして、現時点では2件増え、1月末では12件となっております。そこで、皆様には子ども達の間で今起こっていることがどの様に映っているかをお話しいただくことで、多様な視点を持つこと、また、必要に応じて各機関と連携を図ることで、子ども達の非行防止に生かして参りたいと考えてあります。以上です。</p>
<p>鈴木委員長</p>	<p>はい。ありがとうございます。それでは、8ページの資料をご覧くださいまして皆様からご意見をうかがいたいと思えます。では最初に、三代川委員からお願ひいたします。</p>
<p>三代川委員</p>	<p>こんにちは。PTAの立場からですね、家出事案の増加はですね、1月末までで12件というのは非常に多いなと実感しました。やはり、原因が何であるかというのも考えていかなければならないと思ひましたし、今年度はPTAの方でも研修会があるんですね。今年度は市のPTAが55周年ということで、毎年講演会という形で講師を招いてあります。どちらかという大人向けの内容でして、様々なお話をしていただいております。今回は55周年ということもありまして、子どもも含めましてミュージカルの鑑賞をさせていただきました。当初は定員が600名ということで応募したんですけど、結果的には800名近い方々から応募がありました。実際に来て下さったのは700名ちょっとだったと記憶してありますが、その際にアンケートをとったんですね。そうすると、親子でできる研修会は非常に素晴らしいという声が1番多かったんですね。来た方々は小学生とその保護者が多かったんですけど、子どもと一緒に共感できるというか、非常に素晴らしい体験だったということです。来年度も、今回の様に親子で取り組むことも含めて何をしたらいいかを考えていきたいと。昨今子どもが巻き込まれている事件等々も多いので、防犯スポーツ教室をやりましょうと決定させていただきました。まあそれも親子での参加型みたいな、しかもスポーツを通じてですね、例えば不審者が出た時に子どもたちがどうやって逃げるのかを体を動かして学んでいくということを来年度に向けて決定</p>

させていただきました。やっぱり親子で触れ合っていくことで家庭にある溝だとかを埋めていければ、家出だとか他の事件も減っていくんじゃないかなと思うんです。前回ミュージカルをやらせていただいた時に、PTAってやっぱり協力が難しいところではあるんですけど、初めてPTAの活動が分かりましたってアンケートもあり、親子でやるってのは非常に良かったなと実感しております。我々PTAの中でそういった活動を毎年毎年やっていけば、家出する子たちも段々減っていくんじゃないかなと。すぐには結果は生まれないと思うんですけど、やっぱり親子の絆をつくっていくための助言をPTAの中でもしていきたいと思っております。家出をせめて1桁台にはもっていききたいなと、本当は全部無くせればいいんでしょうけど、少しずつでも減らしていくためにPTAの中でも活動していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

鈴木委員長

はい。ありがとうございました。PTAの活動を皆様にご理解していただければ1番いいですね。

では、続きまして落合委員お願いいたします。

落合委員

はい。青少年補導委員の方からです。三代川さんが親子の絆ということでお話しして下さいましたが、私たちは子どもが外に出てきてどう遊んでいるのかな、見えてくるものは何かと考えていかなければと思っています。子どもたちが公園で集まってもゲームをしたりとか、体を動かして遊ぶつながりが減ってきているなど見ています。私たちは遊んでいる子どもたちに声をかけてコンタクトを取りながら様子を観ていく補導の形をとっています。だから、踏み込んでどうこうということまでは私たちはできないんですけど、ただ、家出した子どもがポツンといるのを見つけられるかどうか。他の子どもたちから離れたところでそういう子たちがいるのかどうかを自覚してパトロールするのかという2点がカギになってくるのかなと思っています。で、この事案を見ていくと、遠くに行った子は1人いるようなんですけど、ほとんどは近くにいて家に帰っていますよね。家庭で何かあってちょっと出てしまうと。多分近くの大型店舗や公園、ゲームセンターで過ごしているのかなと思うので、私たちが重点的にパトロールを行い、ただ遊んでいるだけという見方ではなく、なぜここに来ているのかなとも考えながらやっていかなければと思いました。多分子どもたちがどこかに集まって話を聞いてもらえるような場所は、八千代市には無いのかなと思うんです。そういう場所は必要なんだなとも思うし、でもどうつくればいいかが分からないのが課題かなとも思うんです。けど、皆で多くの子どもの声掛けしていくのは必要だと自覚しています。今年度も勉強会をもちますけども、講師には子どもたちの様子を中心にお話しさせていただきますが、今回の事案を見てその中に補導委員としてどうあるべきかを踏み込んで話していきたいと感じました。以上です。

鈴木委員長

はい。ありがとうございました。では、続きまして川村委員お願いいたします。

川村委員

こんにちは。まず、このテーマを選んでいただきましてありがとうございます。学警連は大和田地区の懇談会で沢山お願いしたからですかね。常日頃からです。校長先生を中心に昼夜問わず電話をかけてしまいまして、ご協力に対しまして感謝の言葉しかございません。今ここに載っている事案はですね、学

校の先生方の力をお借りして、教頭先生も勿論ですが、校長先生にはすぐ学校に飛んでいただいてですね、資料収集していただいているところでございます。多分、私が着任してからですね、夜間に校長先生や教頭先生に電話をかけることが増えたと思います。ありがとうございます。今、落合会長からお話があった通り、大多数の子どもは本気で家出しようとか行方不明になろうと考えてはいないのが実情だと感じております。ただ、発見するのに時間が少しかかるのは苦慮するところでございます。この行方不明事案できっかけとなって怖いのは、SNSですよね。サイバー空間上でしか接触が無かった人間が、言葉巧みに言われて接触してしまう事案が幾つかあります。そこでお願いしたいのは、まずSNSの取扱いを学校さんの方でもお話していただけるとありがたいです。サイバー空間上で会う人間というのはですね、全てが善良な人とは限らないですし、悪意を持っている人もおります。大阪から関東の方にかけて起こった事案も記憶に新しいと思いますし、そこにもう1人茨城の女の子がいたということで、非常に危険なツールであることは再認識していただけたと思います。やるなとは言えないんでしょうけども、そこで会った人間を無闇やたらに信じてしまうのは非常に危険性が高いというか、最悪命を落とす可能性もあるということをご指導していただければと思います。昔、京葉地区のある署で少年係として勤務していた際に、女子中学生がSNSで知り合った男に会うために東京まで行ったという事案がありました。戻ってくることを期待して捜査活動していましたが、いっこうに戻ってこない。で、捜査して子どもということで緊急性もあったので携帯会社をお願いして位置探査をしてもらいました。そうしたら、全く縁も所縁もない東京都にいました。ということで、県警本部にも要請しまして100名体制で捜査し、関係個所と特定して入ったところ見ず知らずの男と一緒にいるところを発見しました。結局言葉巧みに誘い出された事案は、沢山ではないですがあります。当然それは事件化され男を逮捕しまして女子中学生に関しては、何回も署に呼び出して長時間の取り調べをしたりと、通常の学校生活に支障をきたすこともございます。場合によっては進学に支障をきたすこともありますから、やはり行方不明事案というのは非常に強く考えなければならぬと思っている次第です。あと、SNS以外にですね、自らの意思や身勝手な考えはどうかと思いますが、いなくなると学校の先生や関係機関を総動員することになり、警察も場合によっては県をまたいで活動しないといけないんで、何百人もの大人が動くことで業務も滞ってしまうし家族や友達にも迷惑をかけるんだよということを皆様からも注意喚起していただくと、子どもたちの行方不明事案は少し減るのかなと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。また、引き続きこのような事案があった場合にはご協力いただくこともありますので、ご容赦願いたいと思います。

鈴木委員長

ありがとうございます。先日うちにも八千代署に来ていただきまして、SNSの講習をしていただきました。ご協力ありがとうございました。

それでは、櫻井委員お願いいたします。

櫻井委員

家出事案ということですが、実際この中では家族に探してほしい、家からそう離れたところにはいない事案のように感じますが、実際多少のお金を持って家出してお金が無くなったから窃盗して捕まったとか、そういう人を担当したことがあるんです。家から距離的に離れたところに行ってしまうと、探してほしいんじゃないで、食べるために悪いことをするようになってしまうんでね。あと、女の子では、友達の所に行って一緒に万引きをして捕まり保護観察になった事

案が結構あるんです。家出は非行の始まり、犯罪の始まりというか、色々な犯罪の始まりになってしまうと思うので、お父さんやお母さん等家族の方々が何かあった時には分かるまで指導してあげること、そして支援してあげる。ただ怒ったり叱ったりして終わりではなく、最後までしっかり指導してあげることが大事だと。私たちもそうですけど、誰一人として取り残さない気持ちでそういった事案に取り組めば、非行も減らせるだろうし、再犯することも少なくなるんじゃないかと思います。以上です。

鈴木委員長

ありがとうございます。では、遠藤委員お願いいたします。

遠藤委員

今櫻井さんがお話ししてくださった内容と関係があることを少し経験したことがあるので、家出をした訳ではないのですが、お話いたします。今年2学期が始まってしばらく経った日に、ある保護者の方が相談にみえたことがあったんですね。男の子がお1人いる方なんですけど、八千代市は色々な所から引っ越してくる方々が多いので、親御さん同士つながりが持てない方もいるようなんです。孤立してしまっているというんですかね、子育てに悩んでいらっしやるとのことでした。学校が始まって、子どもが登校を渋るようになってしまったので、相談にのって見たと。しかし、話がうまく伝わらなかったのがカウンセラーの先生に来てもらったそうなんです。カウンセラーの先生はこうしてみてもと提案してくれたそうですが、お母さんはどうやったらいいかわからない。原因としては、先程言いましたが、相談相手がない。同じ学校やクラスの中で相談することも考えたんだけど、スマホ等で伝わってしまうのではないかな。そんな心配があって、親御さん同士でも相談できない。おじいちゃんやおばあちゃんは遠くにいるので相談しにくい。しかも、おじいちゃんやおばあちゃんとしては自分たちがしてきた子育てと、今は環境が違うのでなかなか答えあげられない。というような理由で、民生委員に相談してみてもどのアドバイスがあったので、私の所へ来てくださったんです。民生委員は専門家ではないのでどうしようとはアドバイスできないけれど、お話を聞かせてくださいと言ったら、泣きながら独りで沢山背負っているのが苦しいとの相談があったので、お話を聞きました。で、お話を沢山聞いていくうちに、ご自分の気持ちが整理できたようで、最後には笑って頑張ってみると言ってお帰りになりました。私はいつでもお話聞くよと言ってお別れしたんですが、家庭の中で孤立してしまうお母さん、ご家族が地域の中でうまくやっていけないのが今の社会の現状ではないかと思うんですね。子どもがお家にいて本当は親と話したいんだけど、家族に余裕がない。だから、本当は自分の家庭が1番帰りたい場所なのに、安心できる場所になっていないんじゃないかなと。でも、誰のことも責められない世の中になっているのかと思います。ですから、民生委員としてできることはお話を聞いてあげること。民生委員さんには、是非お話を聞いてあげてねとお願いしました。そして、子育てのような支援の話し合いの場では、どうぞ民生委員をつかってください。お話するだけで、愚痴をこぼすだけで気持ちがだいぶ楽になりますからとお話しました。私たちは中々関われませんが、そうやって陰で応援したいと思っております。以上です。

鈴木委員長

ありがとうございます。親御さんの話も子どもの話もしっかり聞いていくことが大事なんですよ。

では、設楽委員お願いいたします。

設楽委員

まず、家出の事案に関して、中学校に勤務している者として、中学生が大部

分を占めていることを重く受け止めなければいけないと思っております。家出の原因が何に起因しているのか詳細は分かりませんが、私はある程度中学生の思春期や発達段階にも関係しているのではと感じています。その思春期、発達段階に、まずは親御さんがどう寄り添っているのか、その背景をしっかりと把握していくことがとても大事ではないかと考えております。普段からどう関わっているのか、あるいは、私たちは人間ですので、学校でも家庭でも子どもには色々なことが起こると思うんですが、その関わりの中で子どもを納得させられるような指導というか、話し合いができていのかどうか。そういう視点で考えていくのも必要なのかなと思いました。また、思春期、発達段階という話をしましたが、では、学校として何ができるのかと考えた時に、保護者会等を利用してですね、保護者に対して色々な事案等を話しながら啓蒙していくことも、これからは大事なのではと感じました。また、職員にもいつも言っているのは、学校の中に居場所をしっかりと作ることが大事だということです。それが、学級であろうが、部活動であろうが、自分が心を許せる、存在を認めてくれる居場所があれば、子どもは学校に足が向いてくるのかなと。家で怒られたとしても学校に足が向いて、何か友達に話をする、先生に話をする程度問題に対しての解決の糸口みたいなものが見つかることが大事かなと思います。今以上にですね、子どもにとっての学校の居場所をつくってあげることもとても大事かなと。あとは、子どもへの指導の中で、原因を第三者的な目で客観視できる力も身につけさせていく必要があるかとも思いました。例えば、ゲームをやりすぎて怒られているのであれば、やはりゲームをやり過ぎると次の日起きられない原因にもなるなとか、中学生もバランスの良い生活が必要ですから、食事を家族と一緒にとるとか。あるいは、勉強する時間を確保するとか。そう考えられれば、親から言われることは当然だなと客観視できてくることになりますよね。学校の現場にいる教員としては、そういうことも子どもたちに考えさせていく必要があるのかなと感じました。あとは、自分をしっかりと見つめる力、親に怒られたらきちんと謝る力等もつけさせていく必要があると思いました。以上です。

鈴木委員長

ありがとうございます。では、次に石井委員お願いいたします。

石井委員

はい。最初に質問させていただきたいんですけど、8ページの今年度10件の家出の中ですら、5番の子と9番の子は同じお子さんなんですか。または違うお子さんなんですか。また、このお子さんが前年度に記載されているお子さんと同じなのかも教えていただけますでしょうか。

鎌田主任指導員

はい。今のご質問ですが、今年度に関しましては、全て別のお子さんでございます。また、昨年度のお子さんと同人物かということですが、今年度のお子さんとは別人物でして、昨年度のお子さんについての報告は今年度上がってきてございません。

石井委員

はい。ありがとうございます。では、それを踏まえまして。ある市ですら、中学生の女の子が家出を繰り返す件がありました。その子が、最初の家出の時は担任の先生に発見されて家の方に戻されたんですけども、2回目の時に、同じように学校さんが探してくださって、養護の先生が近所の公園で発見してくれました。その養護の先生が女性だったということで、話しやすかったんだと思いますけども、家出の原因について語った内容がですね、新しいお父さんか

らの性的虐待があるということだったんですね。新しいお父さんから、何か言われるのが嫌で、今日お母さんが返ってくるの遅いから嫌だなということもあり、学校から戻らなかったんだそうです。また、これとは別の市の件なんですけれども、テストの点が悪いとお父さんからいつも殴られていたというお子さんがいました。この子は家出ではないですけど、また悪い点数をとってしまったので、テストに火をつけたんです。無かったことにしたかったんですよ。そうしたら、家が燃えてしまったということもありました。つまり、子どもが親から虐待を受けて、行動化の1つのパターンとして家出したり、1つのパターンとして他の子に暴力振るったりとかがあるんですよ。その原因が、やむにやまれぬ場合もあるので、家出を止めるというよりは背景をきちんとくんであげることをお願いしたいなと思います。あと、登校渋りのお子さんがいらっしゃるということですが、聞くところによると子どもの自殺が1番多いのは8月31日で、その次に多いのが9月1日であると。つまり、登校刺激を与えすぎることによってお子さんが自殺の方向へとなる危険もあるので、行動化には何か背景があるということをもまずは気にしていただいて、丁寧に聴き取っていただくことです。先程遠藤委員からもあった通り、丁寧に聴くということが大事だと私は思います。以上でございます。

鈴木委員長

はい。ありがとうございました。では、毛塚委員お願いいたします。

毛塚委員

はい。皆様いつもありがとうございます。子ども相談センターの毛塚です。子ども相談センターは、毎年1000件以上の相談を受けていますが、半分が虐待事案です。今石井委員からあったお話に私もその通りだなと思うんですが、この事案の中で父親に叱られてというものがあったかと思いますが、虐待があつてのケースもこの中に入っていますよね。なので、家出事案があつた場合には、是非子ども相談センターにも連絡をいただいて、その背景として、親による、または、誰かによる虐待があるかもしれないことも認識していただければと思います。実際に今年あつたケースの中でも、父親による虐待のものもありましたので、見つかった後は親に返す訳ですから、その繰り返しにならないようにしなければなりませんよね。調べてみたら児童相談所のケースだったこともございましたので、親に返す前に対策を組まなければならないこともあろうかと思ひます。ですから、子ども相談センターに連絡いただければ、どんな関りがあるかのデータがありますので、対応の仕方も考えていければなと思ひます。そういう連携が必要だし、図れればいいですよ。SNS等の関心事も非常に深刻だと思ひますし、石井委員が言ってくださつたような性的虐待や暴力が背景にあることも十分に考えられますから、大体家に帰らせると怒られてしまうでしょうからね。怒る前に親御さんが子どもの話を十分聴いてあげる体制を組むためには、冷静に考えられないと対応できないと思ひますよね。その時に、子ども相談センターの職員が間に入って何らかのお手伝いをできればいいなと思ひます。先程遠藤委員からも、孤独で子育てしている方がいるとありましたが、その場合は是非子ども相談センターにつないでいただいて一緒に考えていくことはできるかなと思ひます。また、他にですね、最近万引きや金銭に関する相談がすごく多いんですよ。しかも、小学校低学年なんです。金額も10万円という高額なケースもあつたんですね。ですから、家庭内の金銭の取扱いというか、親御さんがびっくりして怒鳴りつけたりとか怒ることはするんですよ。でも皆さんご指摘の通り、親御さんは感情的になってしまつて背景のことまで考えられないんです。なので、その辺りは一緒に考えていき

	<p>いなど。更に、お金の問題はすごく重要ですよ。最近あったこととして、ガチャガチャを数万円分やってしまうとか、ゲームセンターで何度も遊んでしまうとか。しかも、友達と一緒にやっている。こんなことがお金の管理ができない小学校低学年で起こっていますし、友達以外との交流も生まれてしまいますから、最初の発見からどう対応するかが重要ですよ。警察への報告もそうですが、私たちもどう指導したらいいかを常に考えながら対応しています。まずは親が財布やお金の管理をしっかりすることと、子どもの心のケアを考えていますが、何かアドバイスがあれば教えていただければなと思っております。家出の話からはちょっとずれてしまっているかとは思いますが、犯罪抑止という点では同じだと思いますので、良かったら教えていただければと思います。終わります。</p>
鈴木委員長	<p>ありがとうございました。今何か情報があればとお話がありましたが、いかがでしょうか。なかなか難しいと思いますので、皆さんで情報を持ち寄りながら対応していくことが1番大事でしょうね。</p>
毛塚委員	<p>躰の仕方って本当に難しいですよ。躰＝虐待につながるものが非常に多いので、躰の仕方を一緒に考えていくのがこれから重要なと思います。</p>
鈴木委員長	<p>では、今各委員からお話をいただきました。皆様のお話を聞きまして、子どもたちだけではないですけど、問題行動を起こす子は色々なSOSのサインを出しているとか、普段と違うなと思うところがあるかと思しますので、我々学校はそれをしっかり観察する、気づく目を持ちたいと感じましたし、コミュニティも含め地域の方々に、声をかけていただいて様子を把握していくことが大切ですよ。見て見ぬふりをするのではなく、気になったことについて連絡を取り合えば大分対応が変わってくると思います。是非我々それぞれの立場でできることを考えて、連携を図っていければと思いました。これからまた色々な事案が出てくるのが予想されますので、このことを念頭において活動していきましょう。</p> <p>それでは本日の議題を全て終了します。ご協力ありがとうございました。</p>
鎌田主任指導員	<p>鈴木委員長ありがとうございました。また、委員の皆様、本日は貴重なお時間、ご意見をいただきましてありがとうございました。</p> <p>以上で、令和元年度第2回八千代市青少年センター運営協議会を終わりにします。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">(閉会 午前11時02分)</p>